

令和 6 年度大学院入学生（春学期）  
アンケート調査結果  
（平成 20 年度～令和 6 年度）

教学マネジメント室教学 IR 部門

2024/6/25

## Section 1

# 調査の概要

# 目的、調査方法

- 目的

本学の大学院教育に対する入学者の期待を把握すること等を目的として、平成 20 年度から継続的に全学的な大学院入学生アンケートを実施している。

- 調査方法

平成 30 年度まで 4 月の入学生オリエンテーション当日に大学院の全入学生を対象としてマークシート方式で調査を実施していたが、令和元年度からは TWINS アンケート機能を用いた WEB 回答方式に変更し、令和 5 年度からは manaba アンケート機能を用いた WEB 回答方式で実施した。なお平成 23 年度については、東日本大震災の影響で入学式が延期されたため調査を実施しなかった。

設問内容は、結果を比較検討するために平成 20 年度からほぼ同じ内容としていたが、令和 3 年度より調査の所掌が教学マネジメント室に移ったことに合わせ、より教育の質保証・質向上に資するため、内容を一部変更した。令和 5 年度には、目指す最終学歴、大学生活を送るにあたっての経済的な不安について聞く設問を追加した。

- 実施体制

本年度は、調査票作成および実査は教育推進部教育機構支援課が行い、設問の検討・集計・報告を教学マネジメント室教学 IR 部門が担当した。

# 回答率

アンケートの対象者数・回答者数・回答率は下表のとおりである。

令和6年度の回答率は65.4%であった。

調査実施年度	対象者数	回答者数	回答率
平成20年度実施(1回目)	2,415名	1,894名	78.4%
平成21年度実施(2回目)	2,441名	1,366名	56.0%
平成22年度実施(3回目)	2,510名	2,056名	81.9%
平成24年度実施(4回目)	2,312名	1,723名	74.5%
平成25年度実施(5回目)	2,380名	1,670名	70.2%
平成26年度実施(6回目)	2,408名	1,849名	76.8%
平成27年度実施(7回目)	2,429名	1,846名	76.0%
平成28年度実施(8回目)	2,528名	1,661名	65.7%
平成29年度実施(9回目)	2,512名	1,868名	74.4%
平成30年度実施(10回目)	2,402名	1,773名	73.8%
令和元年度実施(11回目)	2,458名	719名	29.3%
令和2年度実施(12回目)	2,497名	924名	37.0%
令和3年度実施(13回目)	2,441名	804名	32.9%
令和4年度実施(14回目)	2,478名	1,089名	43.9%
令和5年度実施(15回目)	2,542名	1,719名	67.6%
令和6年度実施(16回目)	2,507名	1,639名	65.4%

# 全体の傾向

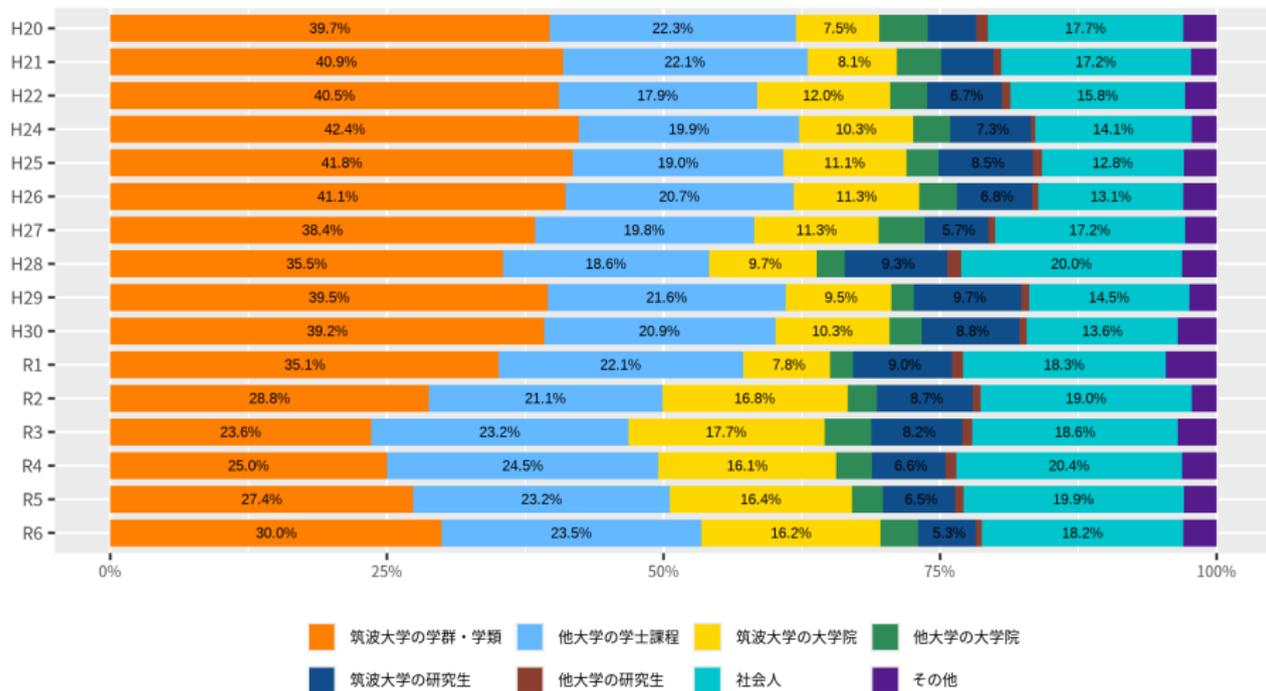
- 調査開始年度（平成 20 年度）から継続している設問の回答傾向は、例年とほぼ同様だった。
- 本学の志望理由については、「自分の希望する研究分野があるから」を選択した学生が 73.3%で最も多く、次いで「教員の教育力・研究力が高いから」が 55.8%だった (p.9)。
- 修士課程、博士前期課程、専門職学位課程の学生が目指す最終学歴は、修士が 70.9%、博士が 26.0%であった (p.21)。
- 大学生を送るにあたって、経済的な不安があると回答した学生は 25.4%であった (p.21)。

## Section 2

# 設問別調査結果

# 大学院進学前の所属

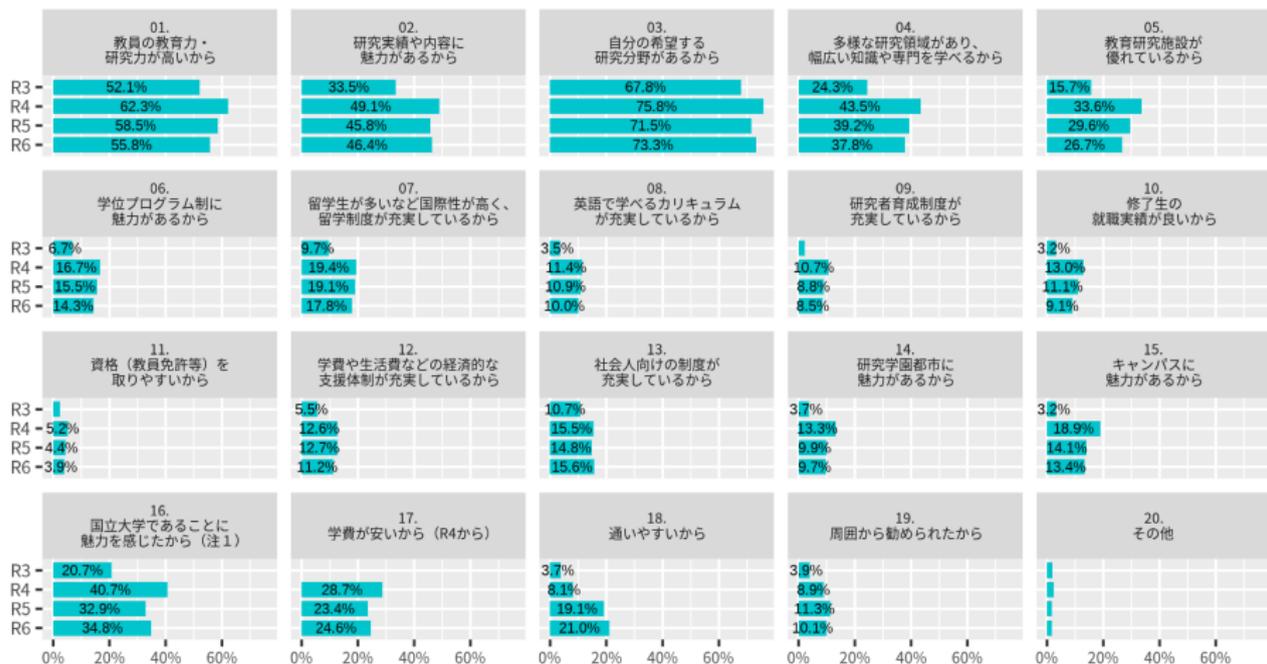
筑波大学大学院に入学する前の所属



注：5%以下は割合の表示を省略

# 志望理由

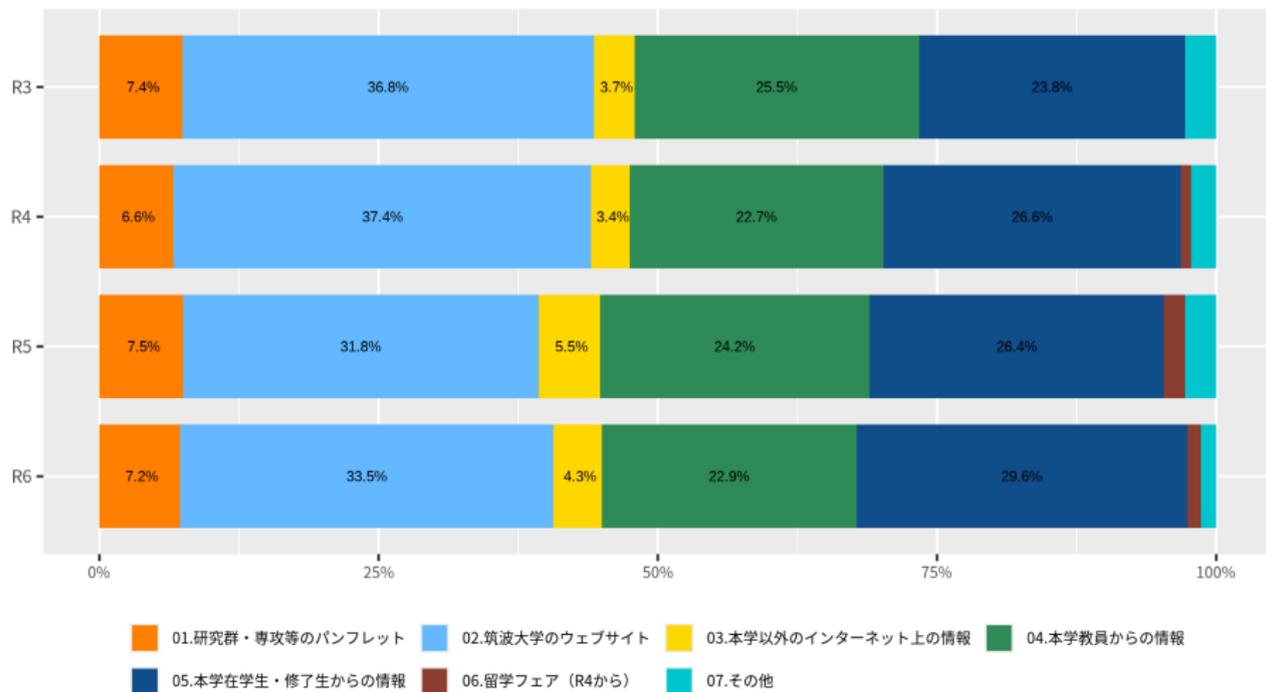
本学を希望した理由としてあてはまる項目  
(複数選択可。R3は3つまで、R4以降は当てはまるもの全て)



注1：R3は「国立大学だから」  
注2：3%以下は割合の表示を省略

# 志望決定に役立った情報源

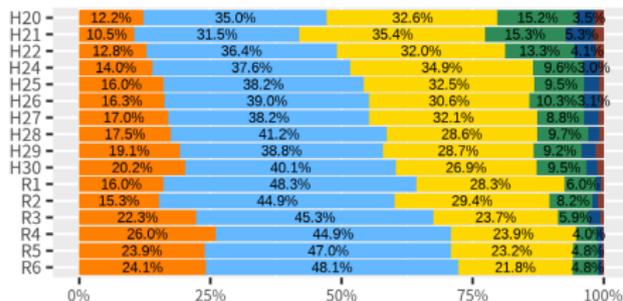
本学への志望を決める上で最も役に立った情報源



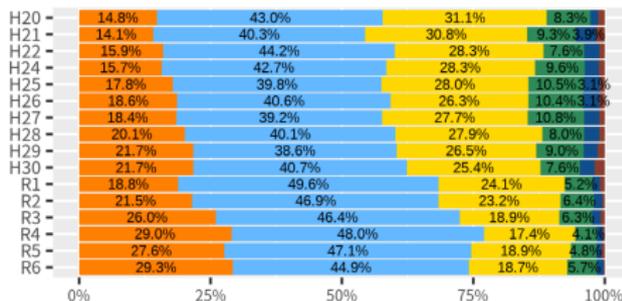
注：3%以下は割合の表示を省略

# 入学までの情報提供等についての満足度

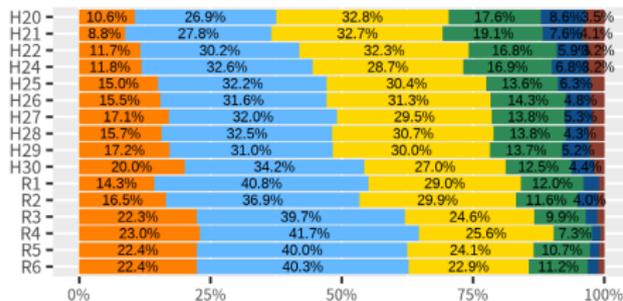
志望決定のための本学からの情報提供



大学入学試験の実施方法・内容等の情報提供



合格後の手続きや学生宿舎入居等についての本学からの支援

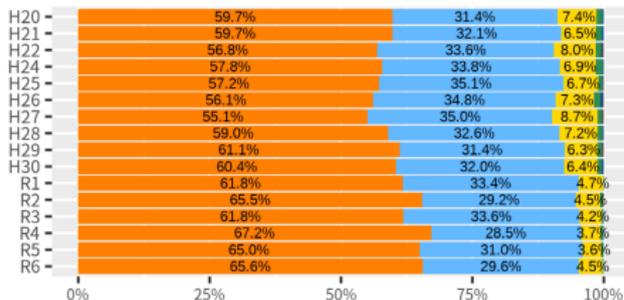


非常に満足 満足 やや満足 やや不満 不満 非常に不満

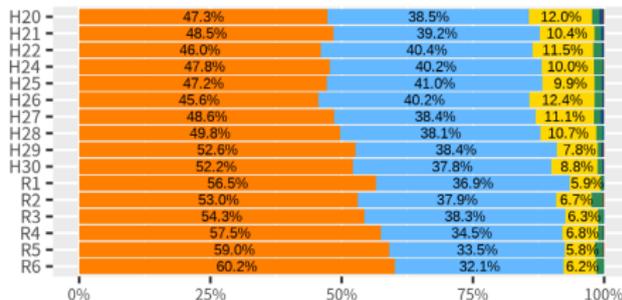
注：3%以下は割合の表示を省略

# 大学生活における重要度：学修・研究環境について

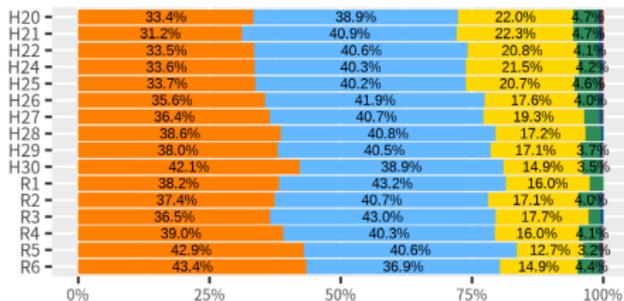
自分自身で学修・研究できる環境



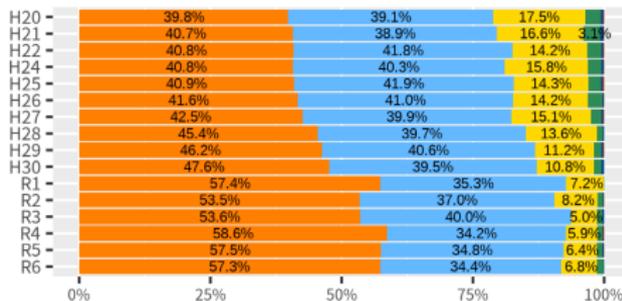
教育・研究施設、設備、機器等



研究テーマ選択の自由度



研究室および研究内容に関する情報の提供

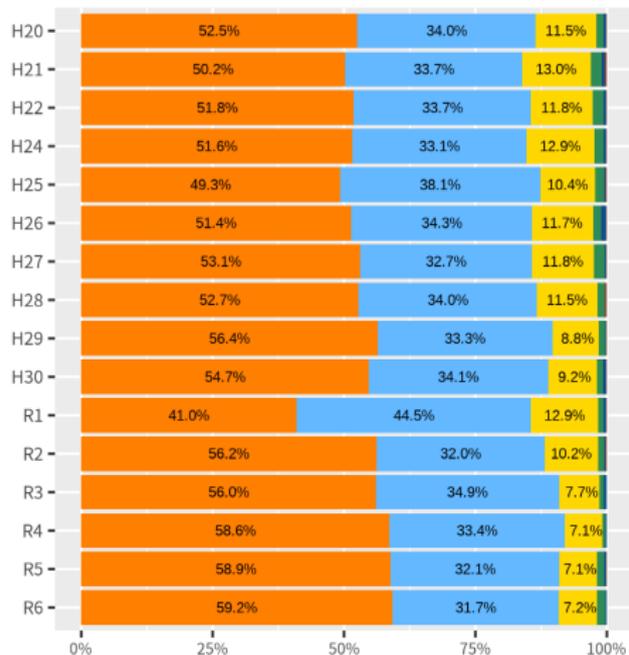


非常に重要 重要 やや重要 あまり重要ではない 重要ではない 全く重要ではない

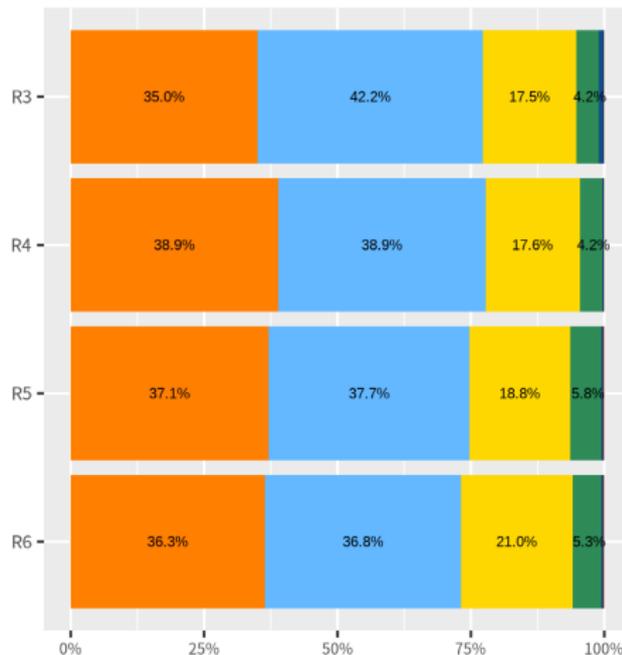
注：3%以下は割合の表示を省略

# 大学生活における重要度：学修・研究環境について

研究室で行うゼミや研究（H20から）



授業外での学修支援（R3から）

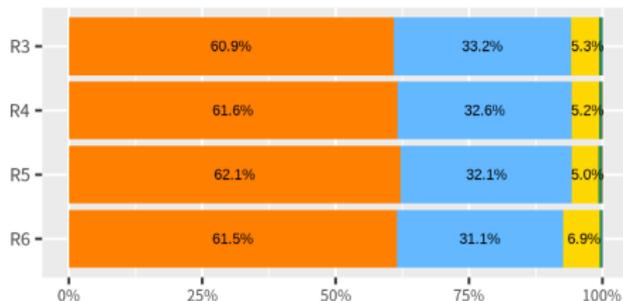


■ 非常に重要
 ■ 重要
 ■ やや重要
 ■ あまり重要ではない
 ■ 重要ではない
 ■ 全く重要ではない

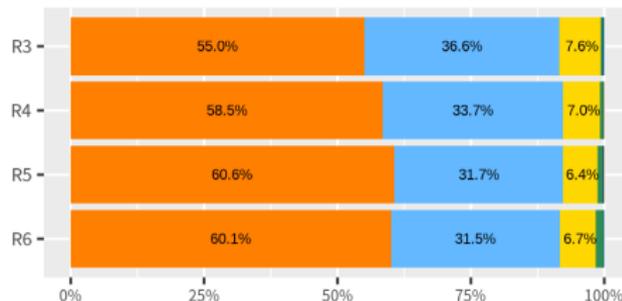
注：3%以下は割合の表示を省略

# 大学生活における重要度：教職員について

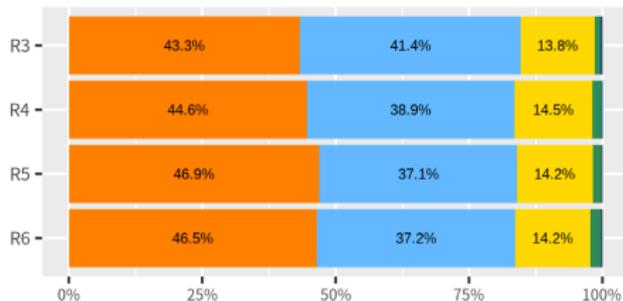
## 教員の教育力



## 教員の研究力



## 事務職員による支援

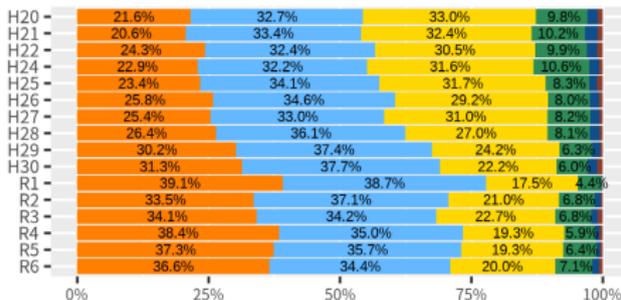


■ 非常に重要
 ■ 重要
 ■ やや重要
 ■ あまり重要ではない
 ■ 重要ではない
 ■ 全く重要ではない

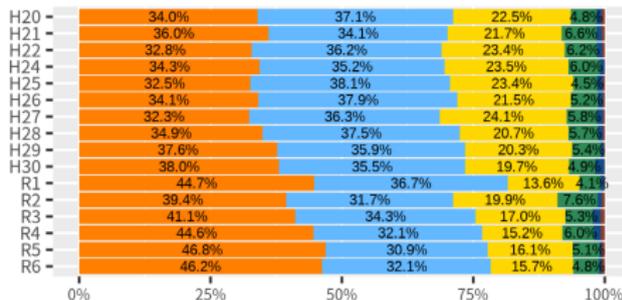
注：3%以下は割合の表示を省略

# 大学生活における重要度：福利・厚生について

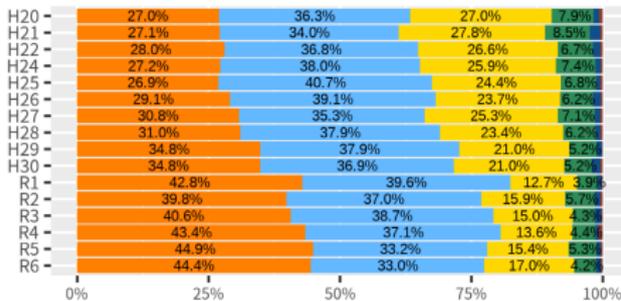
学生相談、セクハラ相談など相談できる環境



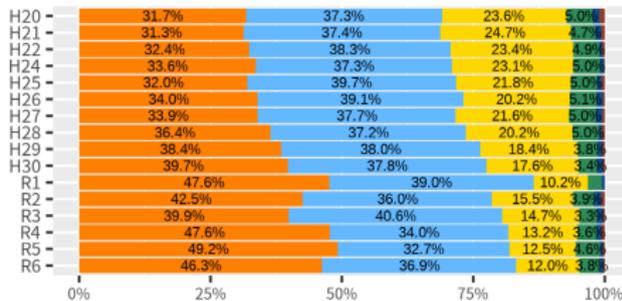
学生食堂、書籍部などの学生の厚生環境



本学からの大学生生活に対する支援



学内の生活環境

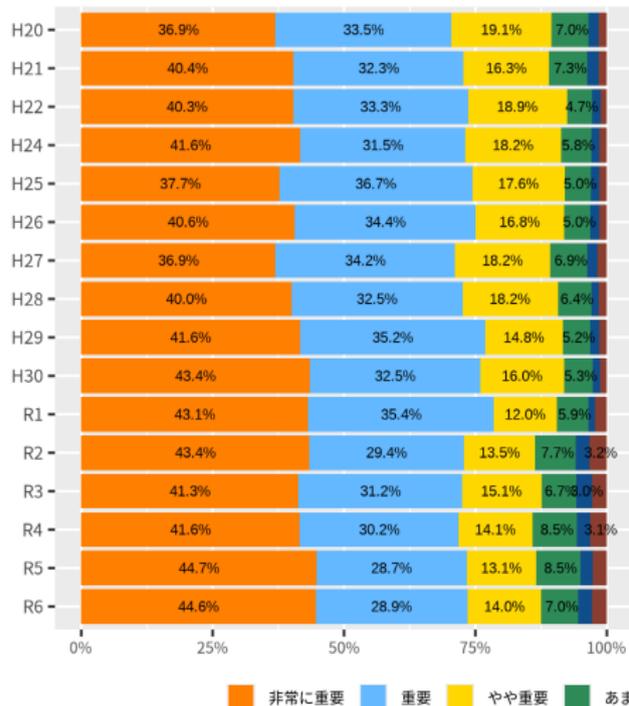


非常に重要 重要 やや重要 あまり重要ではない 重要ではない 全く重要ではない

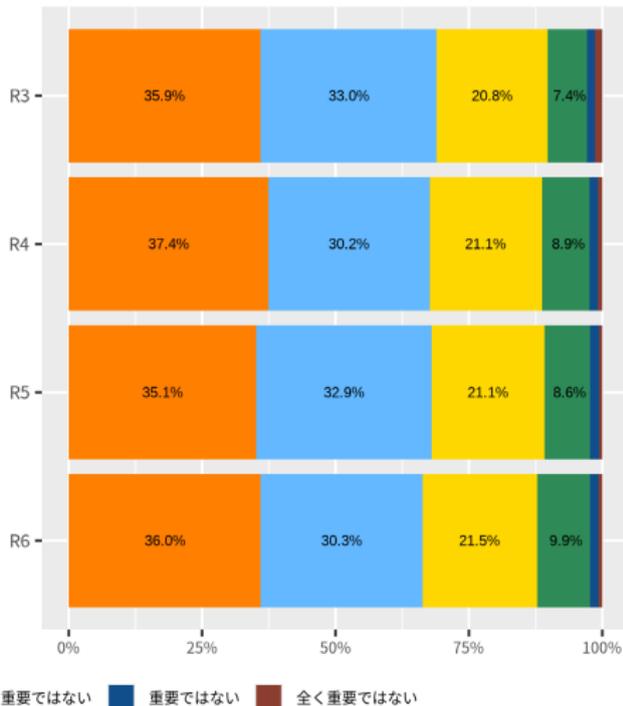
注：3%以下は割合の表示を省略

# 大学生活における重要度：福利・厚生について

本学による就職支援（H20から）



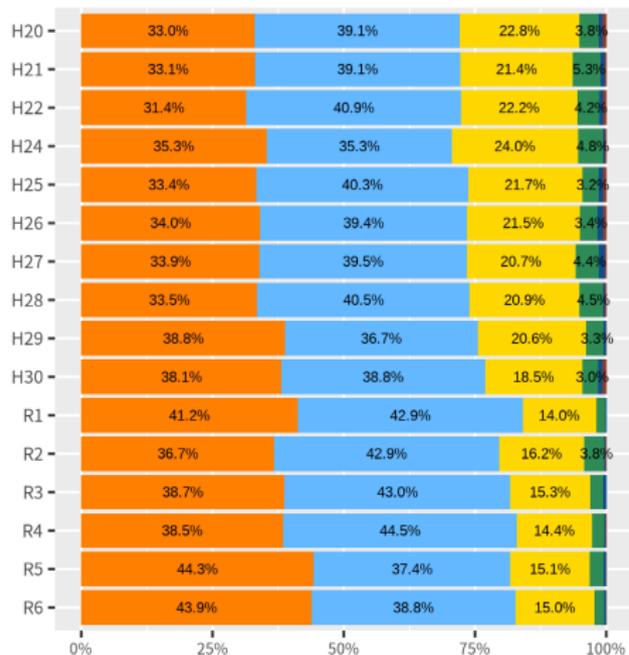
学生が利用できる医療施設（保健管理センター）（R3から）



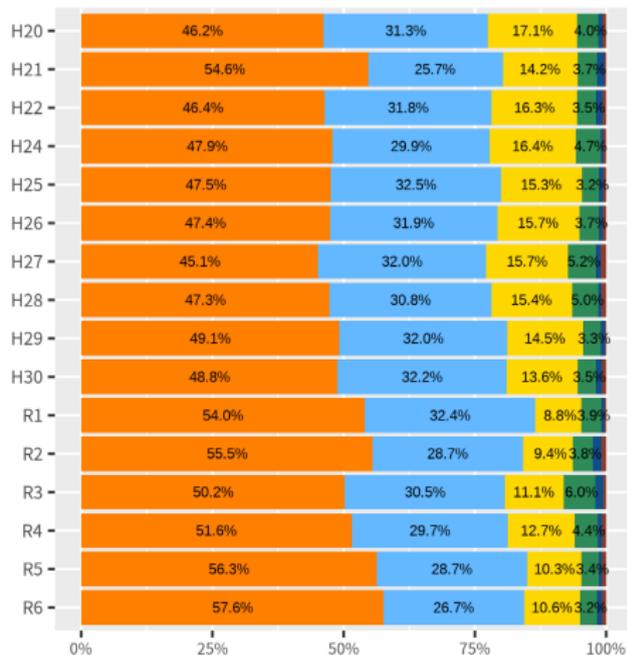
注：3%以下は割合の表示を省略

# 大学生活における重要度：大学全体について

学生の意向を大学教育に反映させるシステム



大学院生に対する奨学金、TA・RA等の経済的支援



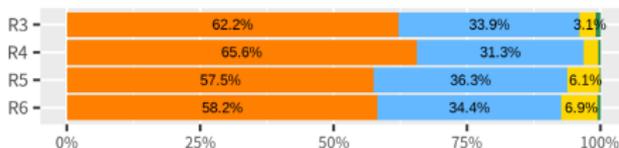
非常に重要 重要 やや重要 あまり重要ではない 重要ではない 全く重要ではない

注：3%以下は割合の表示を省略

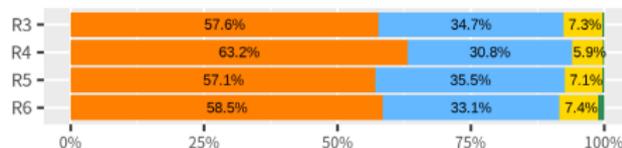
# 汎用コンピテンスを身につける必要性：修士課程等

以下の項目を修了までに身につける必要性をどの程度感じているか（修士課程等）

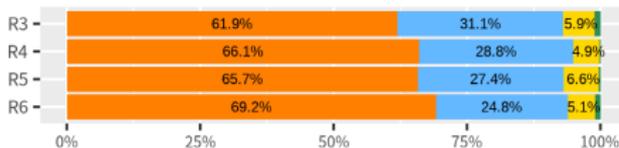
知の活用力：  
高度な知識を社会に役立てる能力



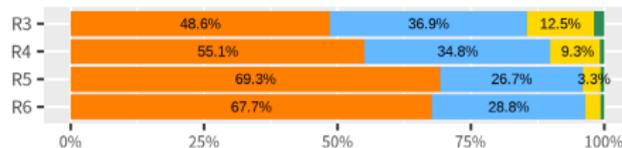
マネジメント能力：  
広い視野に立ち課題の確に対応する能力



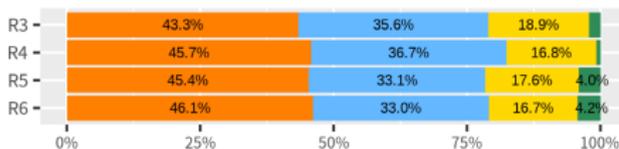
コミュニケーション能力：  
専門知識を的確に分かりやすく伝える能力



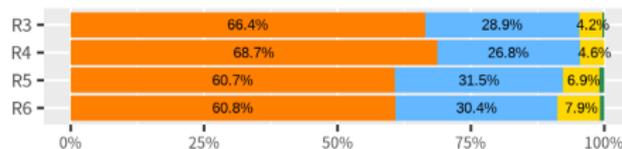
チームワーク力：  
チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力



国際性：  
国際社会に貢献する意識



専門性



■ とても必要性を感じている (R4までは「とても身につけたい」)
 ■ 必要性を感じている (R4までは「身につけたい」)
 ■ どちらかといえば必要性を感じている (R4までは「どちらかといえば身につけたい」)
 ■ どちらかといえば必要性を感じていない・必要性を感じていない・全く必要性を感じていない

注：3%以下は割合の表示を省略

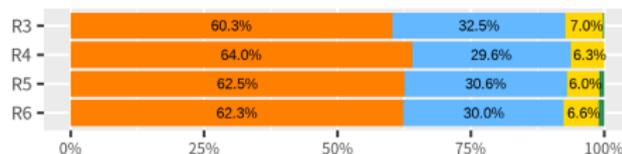
# 汎用コンピテンスを身につける必要性：博士後期課程等

以下の項目を修了までに身につける必要性をどの程度感じているか（博士後期課程等）

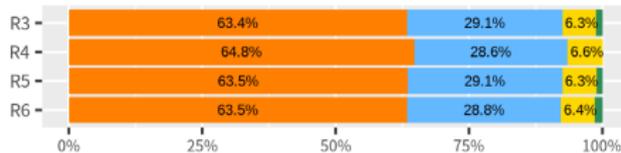
知の創成力：  
未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力



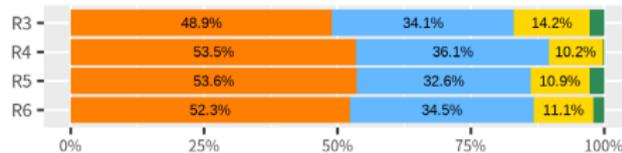
マネジメント能力：  
俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力



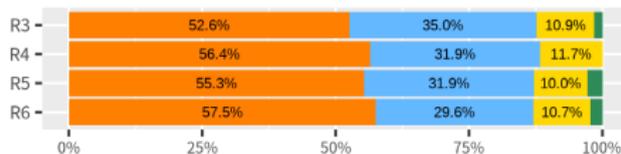
コミュニケーション能力：  
学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力



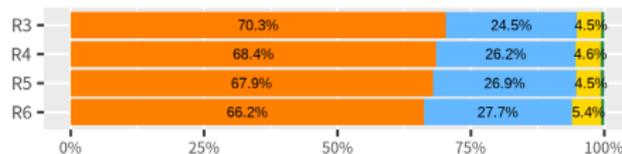
リーダーシップ力：  
リーダーシップを発揮して目的を達成する能力



国際性：  
国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲



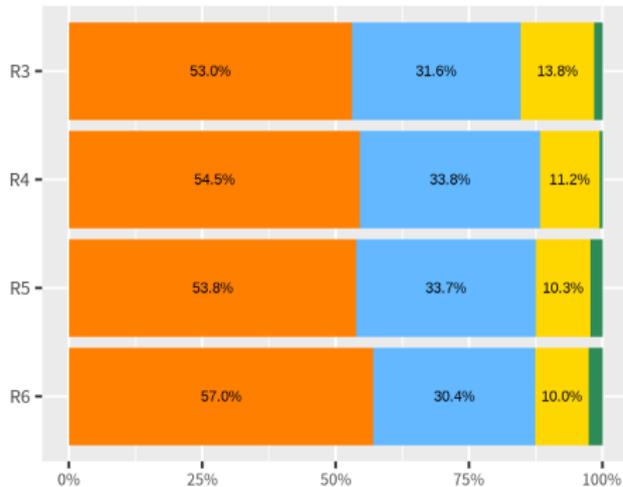
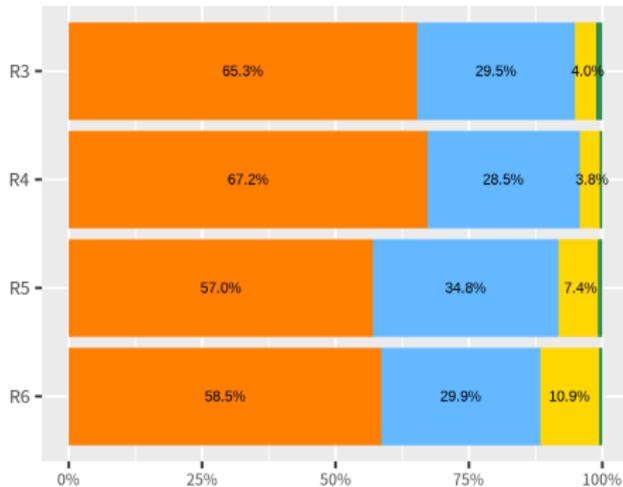
専門性



■ とても必要性を感じている (R4までは「とても身につけたい」)
 ■ 必要性を感じている (R4までは「身につけたい」)
 ■ どちらかといえば必要性を感じている (R4までは「どちらかといえば身につけたい」)
 ■ どちらかといえば必要性を感じていない・必要性を感じていない・全く必要性を感じていない

注：3%以下は割合の表示を省略

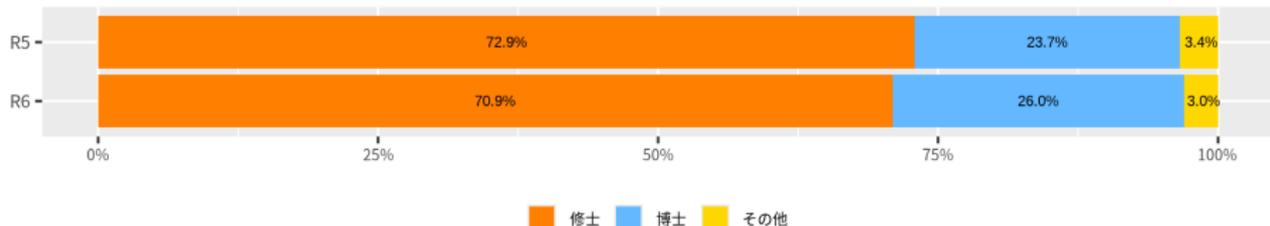
## 英語・日本語を身につける必要性

英語によるコミュニケーション能力を身につける必要性  
(英語を母語としない者を対象)日本語によるコミュニケーション能力を身につける必要性  
(日本語を母語としない者を対象)

注：3%以下は割合の表示を省略

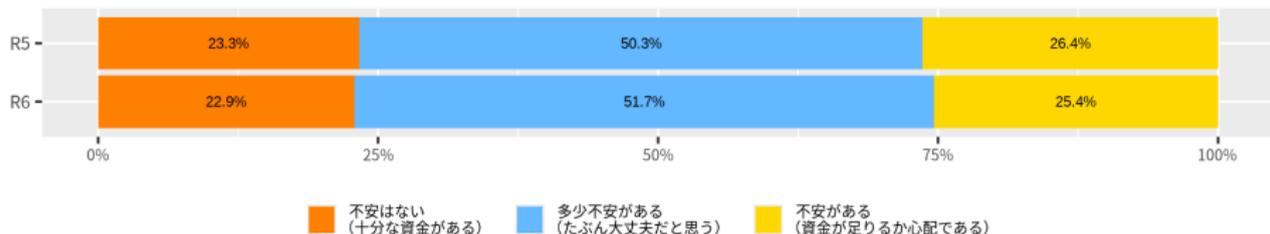
# 目指す最終学歴、経済的な不安 (R5 から)

目指す最終学歴 (修士課程、博士前期課程、専門職学位課程の学生を対象)



注：3%以下は割合の表示を省略

大学生活を送るにあたっての経済的な不安



注：3%以下は割合の表示を省略

令和 6 年度大学院入学生（秋学期）  
アンケート調査結果  
（令和 4～6 年度）

教学マネジメント室教学 IR 部門

2024/12/24

## Section 1

# 調査の概要

# 目的、調査方法

- 目的  
本学の大学院教育に対する入学者の期待や志望動機を把握すること等を目的として、令和4年度より、秋学期入学生に対しても、春学期入学生と同様にアンケート調査を実施している。
- 調査方法  
令和4年度は TWINS アンケート機能を用いたが、令和5年度からは manaba アンケート機能（記名式）を用いた WEB 回答方式とし、入学生オリエンテーションや、manaba コースニュースで協力を依頼した。令和5年度からは、目指す最終学歴、大学生活を送るにあたっての経済的な不安について聞く設問を追加した。
- 実施体制  
本年度は、調査票作成および実査は教育推進部教育機構支援課が行い、設問の検討・集計・報告を教学マネジメント室教学 IR 部門が担当した。

# 回答率

アンケートの対象者数・回答者数・回答率は下表のとおりである。

令和6年度の回答率は71.8%であり、令和5年度よりは若干低いが、令和4年度よりも高い回答率を維持した。

調査実施年度	対象者数	回答者数	回答率
令和4年度実施（1回目）	158人	57人	36.1%
令和5年度実施（2回目）	169人	125人	74.0%
令和6年度実施（3回目）	174人	125人	71.8%

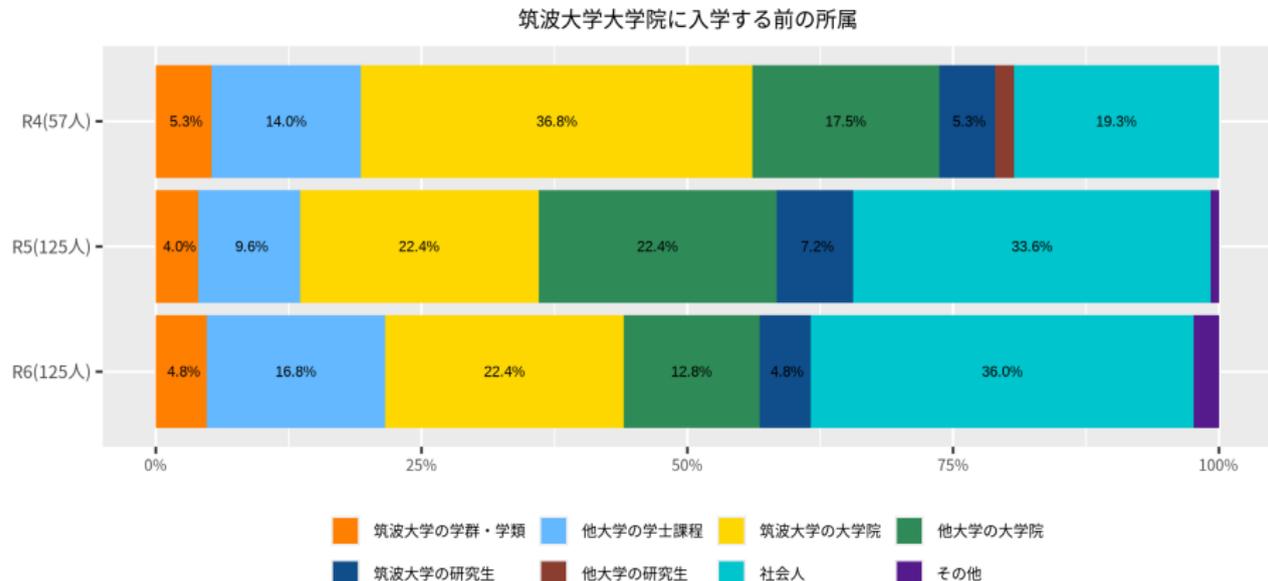
## 全体の傾向

- 本学の志望理由については、「自分の希望する研究分野があるから」が62.4%で最も多く、次いで「教員の教育力・研究力が高いから」が58.4%だった (p.9)。
- 大学生活における重要度を聞く設問において「非常に重要」の割合が特に高かったのは、「教員の教育力」(81.6%)、「大学院生に対する奨学金、TA・RA等の経済的支援」(77.6%)、「教員の研究力」(75.2%)、「自分自身で学修・研究できる環境」(74.4%)であった (p.12-15)。
- 修士課程、博士前期課程、専門職学位課程の学生が目指す最終学歴は、修士が60.9%、博士が36.2%であった (p.19)。(参考：R6 春学期入学生調査では、修士が70.9%、博士が26.0%であった。)
- 大学生活を送るにあたって、経済的な不安があると回答した学生は21.1%であった (p.19)。

## Section 2

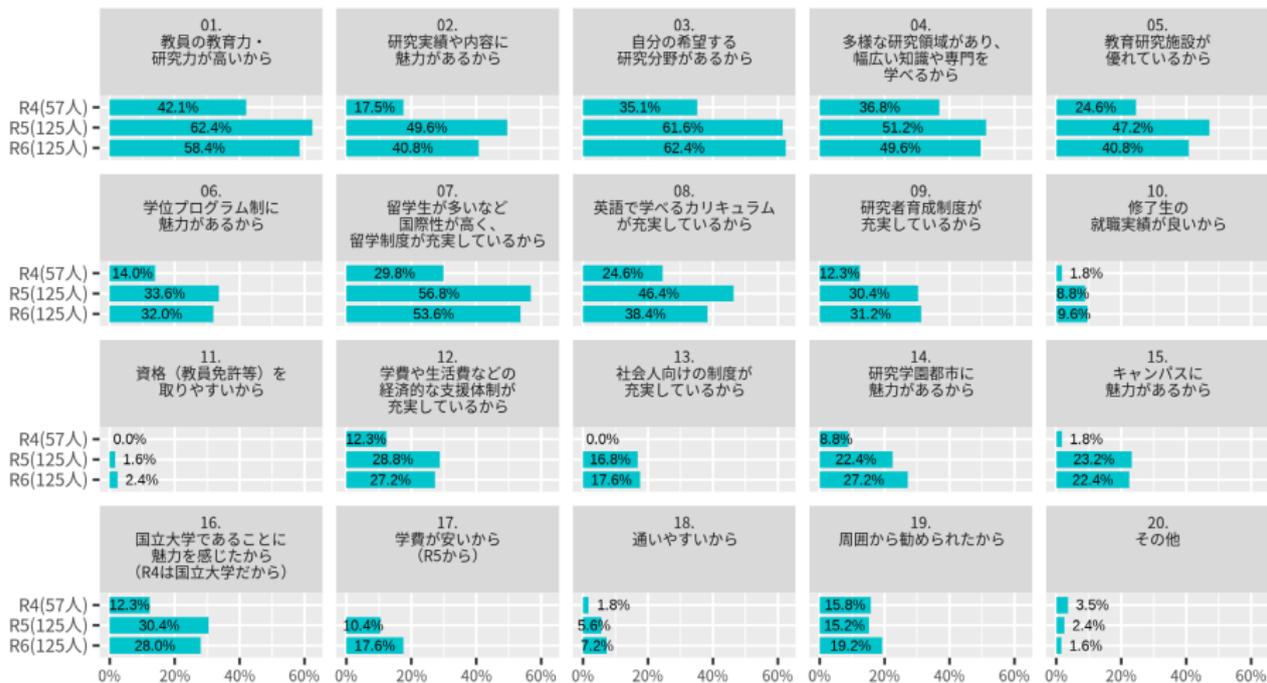
# 設問別調査結果

## 大学院進学前の所属



## 志望理由

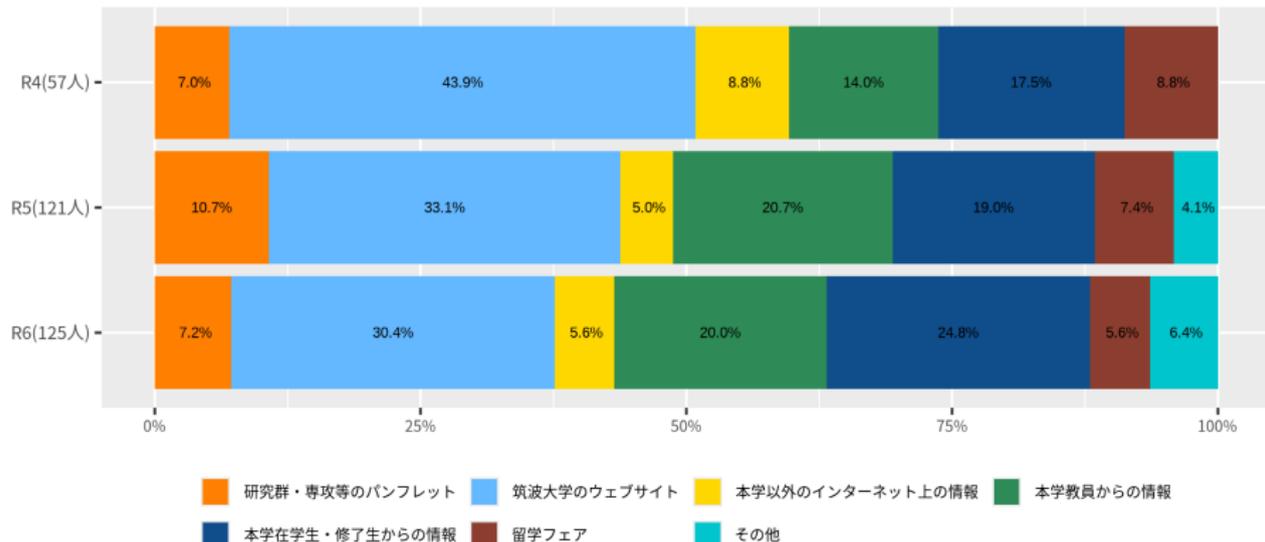
本学を希望した理由としてあてはまる項目  
(複数選択可。R4は3つまで、R5からは当てはまるもの全て)



注：3%以下は割合の表示を省略

# 志望決定に役立った情報源

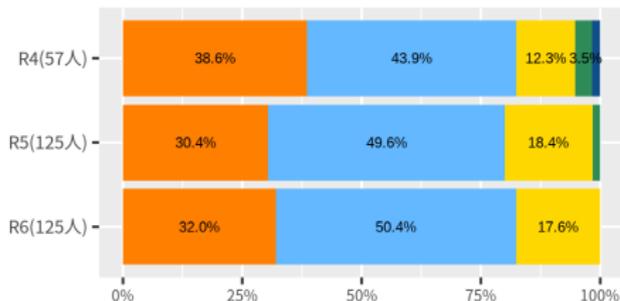
本学への志望を決める上で最も役に立った情報源



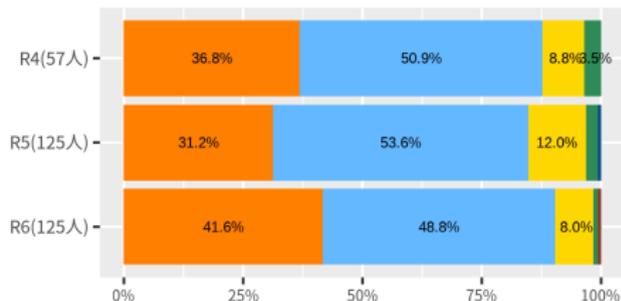
注：3%以下は割合の表示を省略

# 入学までの情報提供等についての満足度

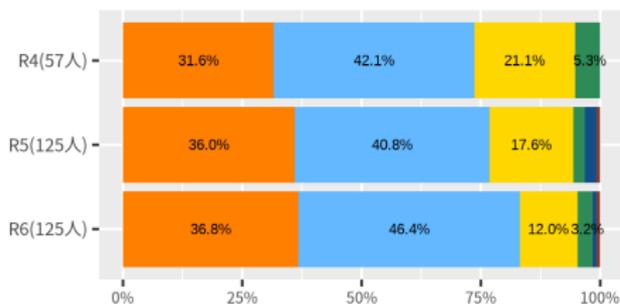
志望決定のための本学からの情報提供



大学入学試験の実施方法・内容等の情報提供



合格後の手続きや学生宿舍入居等についての本学からの支援



■ 非常に満足
 ■ 満足
 ■ やや満足
 ■ やや不満
 ■ 不満
 ■ 非常に不満

注：3%以下は割合の表示を省略

# 大学生活における重要度：学修・研究環境について

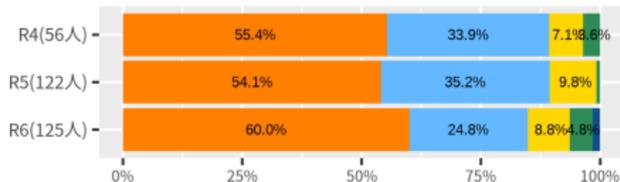
自分自身で学修・研究できる環境



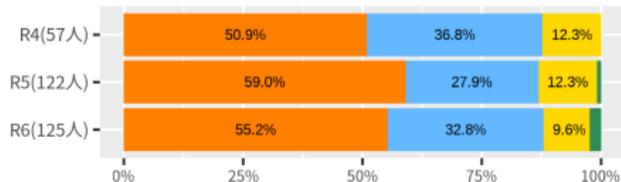
教育・研究施設、設備、機器等



授業外での学修支援



研究テーマ選択の自由度



研究室および研究内容に関する情報の提供



研究室で行うゼミや研究

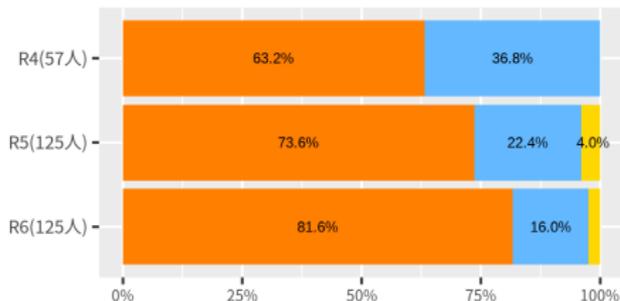


■ 非常に重要
 ■ 重要
 ■ やや重要
 ■ あまり重要ではない
 ■ 重要ではない
 ■ 全く重要ではない

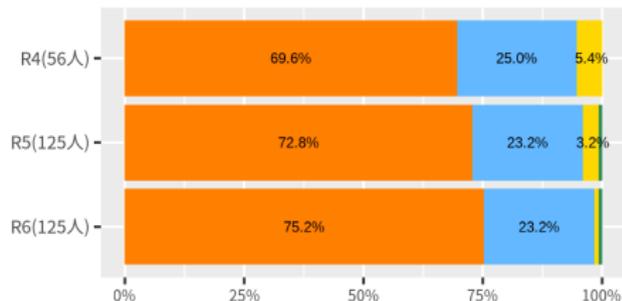
注：3%以下は割合の表示を省略

# 大学生活における重要度：教職員について

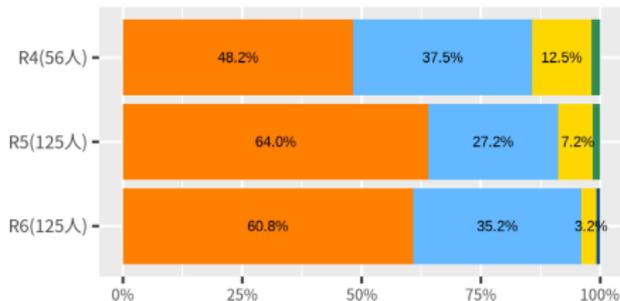
## 教員の教育力



## 教員の研究力



## 事務職員による支援

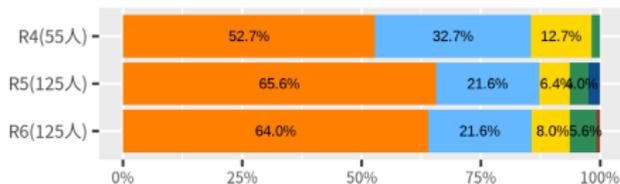


■ 非常に重要
 ■ 重要
 ■ やや重要
 ■ あまり重要ではない
 ■ 重要ではない
 ■ 全く重要ではない

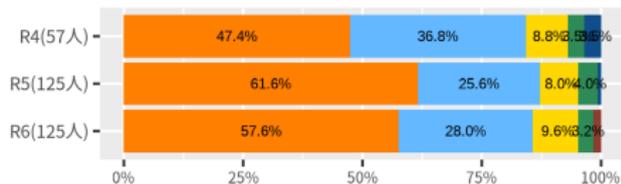
注：3%以下は割合の表示を省略

# 大学生活における重要度：福利・厚生について

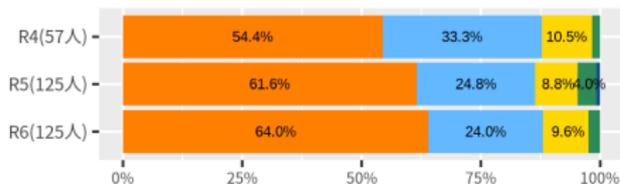
学生が利用できる医療施設（保健管理センター）



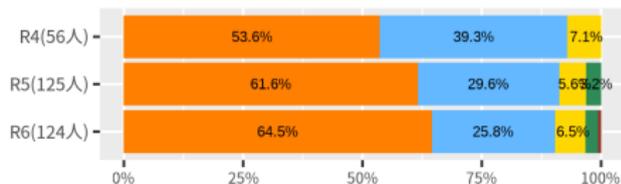
学生相談、セクハラ相談など相談できる環境



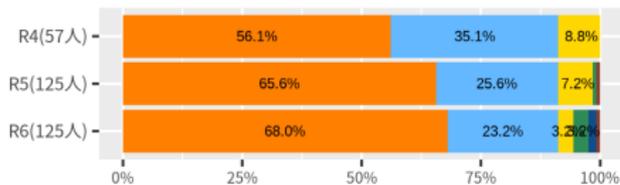
学生食堂、書籍部などの学生の厚生環境



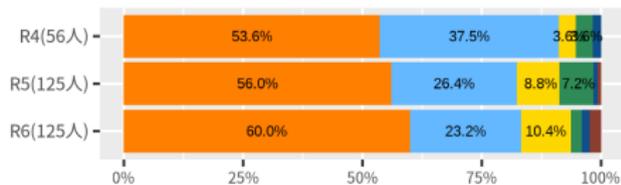
本学からの大学生活に対する支援



学内の生活環境



本学による就職支援

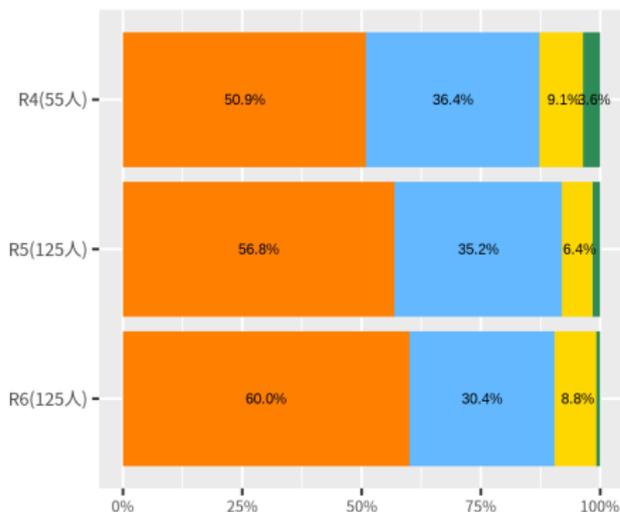


非常に重要 重要 やや重要 あまり重要ではない 重要ではない 全く重要ではない

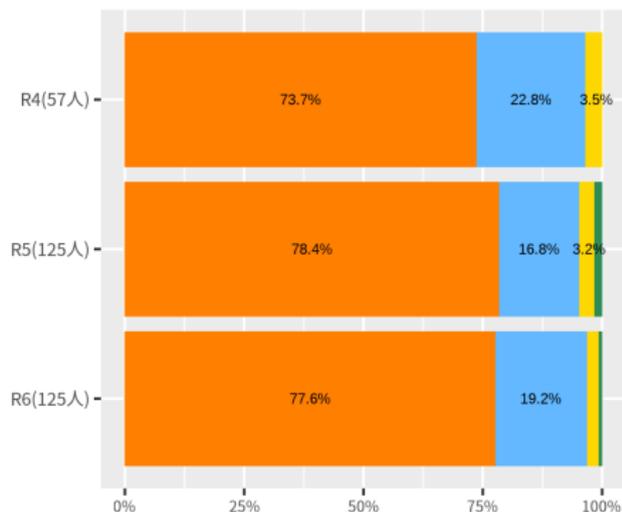
注：3%以下は割合の表示を省略

# 大学生活における重要度：大学全体について

## 学生の意向を大学教育に反映させるシステム



## 大学院生に対する奨学金、TA・RA等の経済的支援



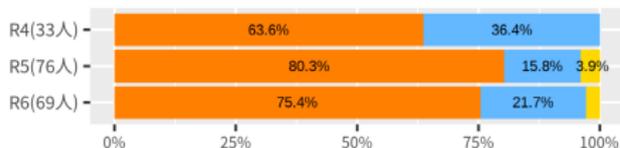
■ 非常に重要
 ■ 重要
 ■ やや重要
 ■ あまり重要ではない
 ■ 重要ではない
 ■ 全く重要ではない

注：3%以下は割合の表示を省略

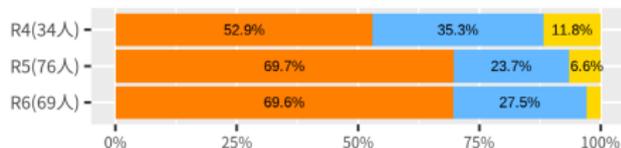
# 汎用コンピテンスを身につける必要性：修士課程等

以下の項目を修了までに身につける必要性をどの程度感じているか（修士課程等）

知の活用力：  
高度な知識を社会に役立てる能力



マネジメント能力：  
広い視野に立ち課題に的確に対応する能力



コミュニケーション能力：  
専門知識を的確に分かりやすく伝える能力



チームワーク力：  
チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力



国際性：  
国際社会に貢献する意識



専門性



■ とても必要性を感じている (R4は「とても身につけたい」)
 ■ 必要性を感じている (R4は「身につけたい」)
 ■ どちらかといえば必要性を感じている (R4は「どちらかといえば身につけたい」)
 ■ どちらかといえば必要性を感じていない・全く必要性を感じていない

注：3%以下は割合の表示を省略

# 汎用コンピテンスを身につける必要性：博士後期課程等

以下の項目を修了までに身につける必要性をどの程度感じているか（博士後期課程等）

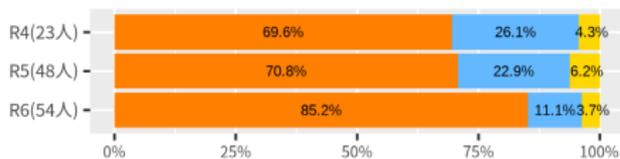
知の創成力：  
未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力



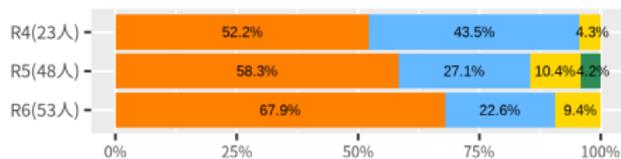
マネジメント能力：  
俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力



コミュニケーション能力：  
学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力



リーダーシップ力：  
リーダーシップを発揮して目的を達成する能力



国際性：  
国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲



専門性

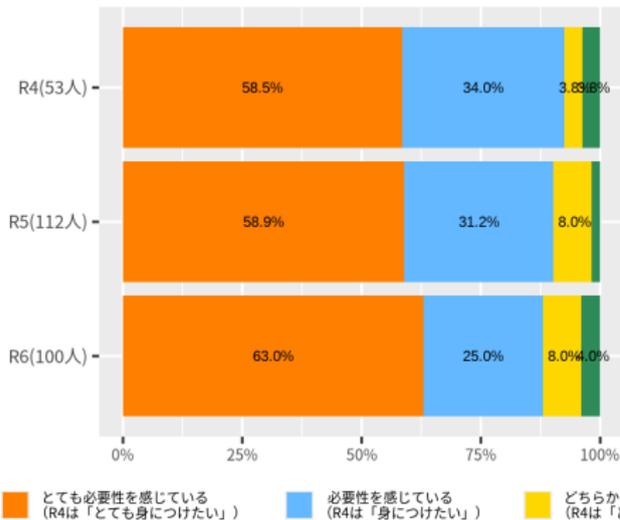


■ とても必要性を感じている (R4は「とても身につけたい」)
 ■ 必要性を感じている (R4は「身につけたい」)
 ■ どちらかといえば必要性を感じている (R4は「どちらかといえば身につけたい」)
 ■ どちらかといえば必要性を感じていない・全く必要性を感じていない

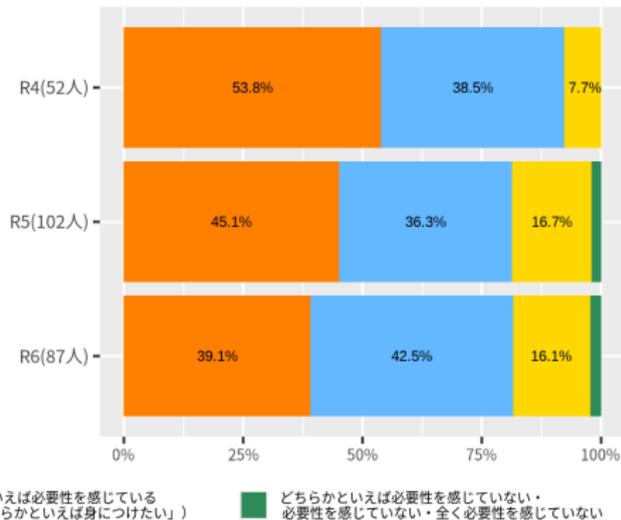
注：3%以下は割合の表示を省略

# 英語・日本語を身につける必要性

英語によるコミュニケーション能力を身につける必要性  
(英語を母語としない者を対象)



日本語によるコミュニケーション能力を身につける必要性  
(日本語を母語としない者を対象)

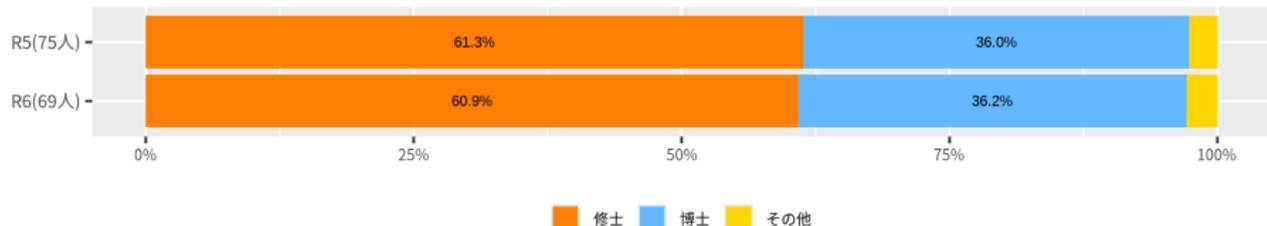


注1：3%以下は割合の表示を省略

注2：日本語によるコミュニケーション能力を身につける必要性については、日本人学生等で回答する者が見られたため、留学生の回答に絞った。

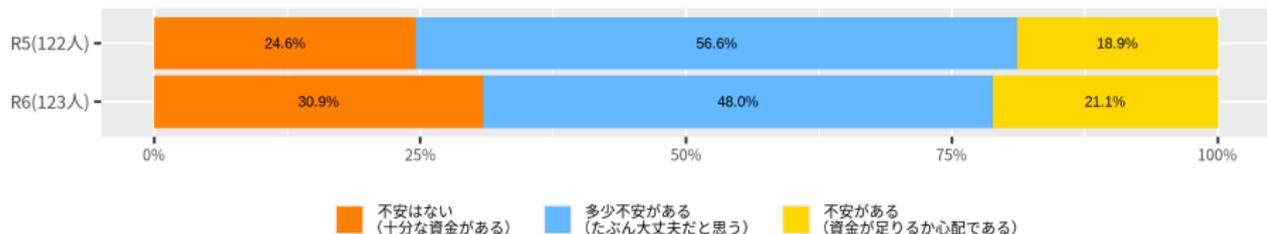
# 目指す最終学歴，経済的な不安（R5 から）

目指す最終学歴（修士課程，博士前期課程，専門職学位課程の学生を対象）



注：3%以下は割合の表示を省略

大学生生活を送るにあたっての経済的な不安



注：3%以下は割合の表示を省略